

# 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 における木材利用等の推進について

平成30年1月25日

**林野庁**

# オリンピック・パラリンピックにおける木材利用の推進

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日 閣議決定）（抜粋）

## 4. 大会を通じた日本の再生

### (2) 日本文化の魅力の発信

～（略）～ 日本には、～（略）～木材・石材・畳等を活用した日本らしい建築など、多様な日本文化がある。文化プログラムの推進も含め、こうした多様な文化を通じて日本全国で大会の開催に向けた機運を醸成し、東京におけるショーウィンドウ機能を活用しつつ、日本文化の魅力を世界に発信するとともに、地方創生、地域活性化につなげる。



## 「木づかい」によるおもてなし！

国産材利用  
のメリット

- ① 日本の高い木材利用の技術力、木の伝統・文化など日本らしさを世界にアピール
- ② 林業再生で地域活性化、そして東北の復興にも貢献
- ③ 地球温暖化防止、循環型社会形成など環境貢献をアピール
- ④ 高い断熱性や吸湿機能を有するなど人にやさしい木材で、国内外からの選手や観光客に快適な空間を提供

（参考）持続可能性に配慮した木材の調達基準（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 平成29年3月24日）（抜粋）

「～国内林業の振興とそれを通じた森林の多面的機能の発揮等への貢献を考慮し、国産材を優先的に選択するよう努めなければならない。」

# 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づく取組

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成22年法律第36号）第7条により定めた基本方針（平成22年農林水産省、国土交通省告示第3号）における備品に関する事項

○公共建築物における木材の利用の促進のための施策の具体的方向として

建築材料以外の木材の利用の促進の観点からは、公共建築物において使用される机、椅子、書棚等の備品及び紙類、文具類等の消耗品について、木材をその原材料として使用したものの利用の促進を図る。

○国が整備する公共建築物における木材の利用の目標

国はその整備する全ての公共建築物において、木材を原材料として使用した備品及び消耗品の利用を促進する～（略）～に努めるものとする。

○基本方針に基づき各省各庁の庁が定める公共建築物における木材の利用の促進のための計画に関する基本的事項

～公共建築物における木材を原材料として使用した備品～（略）の利用の方針を定める。

平成27年度に国が木材（間伐材・合法木材）を原材料として使用した備品の調達状況

机・・・5,495台（木材を使用した製品の調達率24.4%）

棚・・・1,165連（木材を使用した製品の調達率12.3%）等

○都道府県方針又は市町村方針の作成に関する事項

～公共建築物における木材の利用の目標については、～（略）～利用の促進を図る木製の備品の種類を明確にするなどにより、具体的に記載するものとする。

# 地方自治体における取組（例）

## 徳島県

### 木材利用指針に基づく

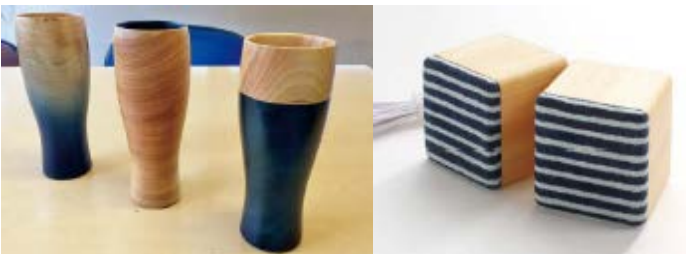
- ・ 県庁舎内での木製品の活用



- ・ 事務所や店舗の木造・木質化



- ・ 身近なものへの利用



## 港区

### 協定木材利用推進方針

備品も協定木材による  
木製品を積極的に利用



## 江東区



↑1,000日前イベントで披露された区庁舎前のデーカウンター  
伝統や木のぬくもりを感じるデザインを採用(写真提供：江東区)

# 民間における取組（例）

## 統一された木質空間の創出 （JR秋田駅のリニューアル事業）

民間事業者、行政、大学が地域と連携し、秋田杉など地域の木材を活用して、秋田駅周辺施設のリニューアルを行った。内装だけでなく、家具も地域の材と技を駆使した製品を設置し、木の持つ「親しみやすさ」・「心地よさ」などの特性を十分に引き出している。



（平成29年度ウッドデザイン賞最優秀賞受賞）

木材使用量	28m <sup>3</sup>
CO <sub>2</sub> 固定量	16.3 t-CO <sub>2</sub>

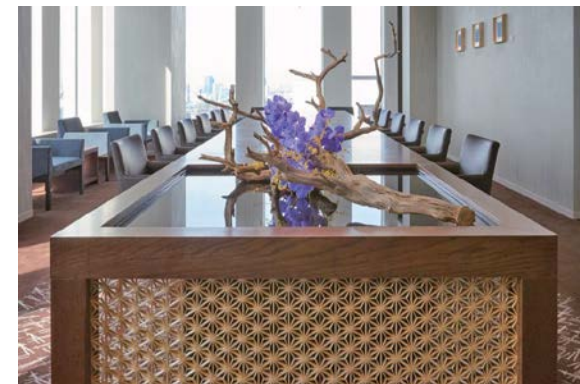
## 事務所の木質化 （（株）トキデザイン・ラボ月島のリノベーション）



新しいものづくり開発拠点における、開発者たちの思考をリデザインさせる木材活用空間事例。

（平成29年度ウッドデザイン賞奨励賞受賞）

## 日本各地の木材でおもてなし （（株）あおぞら銀行の応接室）



木質化した内装に合わせて、什器も優れたデザインの木製品を用い、「親しみやすさ」・「心地よさ」を引き出している。

（平成29年度ウッドデザイン賞受賞）

# オリパラ施設等における木材利用のイメージ

大会運営に用いる各種備品等にも木製品を活用し、木の持つやさらかさ、ぬくもり、心地よい香り等を直接感じてもらうことで、木づかいによるおもてなしを提供するとともに、我が国の誇れる伝統技術・文化を世界に発信。

## 施設内

ロビー



環境省 鹿沢インフォメーションセンター

受付



江東区豊洲シビックセンター

カウンター



日本橋とやま館

会議室



神奈川県川崎市 市長応接室

## 飲食の場



岩手県、宮城県、福島県のスギ間伐材を使用した割り箸



国産木材を30%以上配合した、紙製飲料容器カートカン

## 大会運営等

表彰式



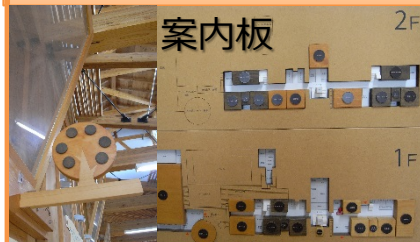
表彰台



漆塗りマグルース

## 案内等

案内板



ポールパテーション



竹垣

